

令和 3 年 6 月 29 日現在

機関番号：37117

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2018～2020

課題番号：17KK0037

研究課題名（和文）ウトパラデーヴァ著『主宰神の再認識詳注』の研究

研究課題名（英文）A Study on Utpaladeva's lost Isvarapratyabhijnavivrti and its transmission

研究代表者

川尻 洋平（Kawajiri, Yohei）

筑紫女学園大学・現代社会学部・准教授

研究者番号：70712206

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,600,000円

渡航期間： 11ヶ月

研究成果の概要（和文）：現在入手しうる写本資料の欄外註や後代の註釈文献に基づいて、10世紀頃のカシュミールでシヴァ教神学者ウトパラデーヴァによって著され、そして後に失われた『主宰神の再認識詳注』の再構築を試みた。一部まとまった形で伝承されているが、大部分は断片的な形であることが明らかになった。南インドで著された註釈群には『主宰神の再認識詳注』が見られないことから、南インドには『主宰神の再認識詳注』が伝承されていない可能性が高い。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『詳注』を再構築する過程で、南インドで著された註釈群を参照している。これらの註釈群は未出版の文献であり、南インドでシヴァ教一元論がどのように受容され、シヴァ教文化がどのように形成されたのかを考える上で、貴重な情報源になる。また、本研究は失われた文献の痕跡を辿っている。このことは、宗教文化の伝承や南北インドの文化交流の実態解明に資するものである。

研究成果の概要（英文）：This study attempts to reconstruct the Utpaladeva's lost vivrti on the Isvarapratyabhijnakarika, and examine its transmission to South India, by means of gathering the fragments preserved in the margin of the manuscripts and consulting the South Indian commentaries on the Pratyabhijna.

A South Indian commentary on the Isvarapratyabhijnavimarsini, Vyakhya, wrongly ascribes the passage of the vivrti to the Ajadapramatsiddhi. Though Nagananda's Isvarapratyabhijnanvayadipika on the Isvarapratyabhijnakarika refers to the work named tika, we could not find any passages of the vivrti in it. In addition, two south Indian commentaries on the Parapravesika ascribed to Nagananda in South India do not quote the vivrti. These facts suggest that Utpaladeva's lost vivrti was not transmitted to South India.

研究分野：シヴァ教

キーワード：ウトパラデーヴァ 『主宰神の再認識詳注』 アビナヴァグプタ 『主宰神の再認識反省的考察注』  
『アンヴァヤディーピカー』 『パラープラーヴェーシカー』

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

ヒンドゥー教タントリズム(密教)は、ここ30年の間に急速な進展を見せた分野の一つである。その背景には、これまで未出版であった文献群の校訂出版がある。しかしながら、今なお未校訂の文献が数多く残されており、それらの校訂出版は、ヒンドゥー教タントリズム研究の目下の急務である。10世紀カシュミールで活躍したウトパラデーヴァの『主宰神の再認識偈および注』に対する自注『主宰神の再認識詳注』(以下、『詳注』)は、そのような未校訂の文献の一つである。この文献は、当時のカシュミールの仏教説や言語哲学者バルトリハリの言語理論を豊富に含んでいる点、またシヴァ教内において、それまでの二元論の伝統に対抗する形で登場したシヴァ一元論を理論的に裏付けることに成功した点においてインド思想史上に重きをなす文献であるにもかかわらず、散逸し失われていた。

これまで『詳注』に関しては、Torella博士が『詳注』の唯一の写本をもとに研究を進めてきた。その成果に基づいて、研究代表者は、『主宰神の再認識偈』の写本(Mss No. 4404, Akhila Bharatiya Sanskrit Parishad, Lucknow)の欄外註に『詳注』断片を発見した。またRatié博士も、写本資料の欄外註に着目して『詳注』の再構築に取り組んでいた。そのような状況の中で、Chetan Pandey氏によってシヴァ教研究者に新たに膨大な写本資料がもたらされた。それらは、これまで研究所等で行方不明になっていた写本だけではなく、従来調査されていなかった図書館や研究所の写本であった。そしてその中に、『詳注』の一部を含む『詳注に関する反省的考察』写本(No. 5077, Jammu, Sri Ranbir Institute, Raghunath Mandir Library, Jammu)が存在することをRatié博士は報告した。

しかしながら、Pandey氏によって提供された写本資料は、研究代表者がすでに入手済みであった関係写本をはるかに上回る40本以上あり、その中には、『詳注』断片を含む写本が残されている可能性があった。またRatié博士が報告した『詳注』は、Torella博士が研究してきた『詳注』(認識章第三日課第6偈から第五日課第3偈まで)や研究代表者が発見していた『詳注』断片とは異なり、認識章第八日課第10偈から行為章第三日課第7偈までを含むものであったことから、『詳注』が、断片的にはなくまとまった形で、伝承されていた可能性も考えられた。

## 2. 研究の目的

上述のような背景のもとで、失われた『詳注』の再構築に取り組んでいる研究者で、効率的に『詳注』断片を蒐集し、より完全な『詳注』の再構築を共同で行うことを企図した。本研究の目的は、写本欄外註や後代の註釈文献に埋もれた『詳注』断片を蒐集することを通じて、『詳注』テキスト全体を可能な限り復元することである。

## 3. 研究の方法

上述の目的を実現するための具体的方法は次の通りである。

### (1) 写本欄外註の網羅的蒐集

Pandey氏によって提供されたものも含めて入手済みの写本資料については、まず欄外註を網羅的にデータベース化する。データベース化に当たり、国内の研究協力者の協力を仰ぐ。蒐集された欄外註から『詳注』断片を抽出する。その際、『詳注に関する反省的考察』において『詳注』の語句が引用されているか、また『詳注』の複合語がパラフレーズされているか否かを『詳注』断片の判断基準とする。

### (2) 後代の註釈文献の調査

『主宰神の再認識偈および注』の内、注は、後半の一部が欠落した形でカシュミールにおいて伝承されていたが、その欠落部分を埋める写本が、トリヴァンドラムの図書館に所蔵されていた。このことは、様々な要因によりカシュミールで伝承されず失われた著作が、消失前に南インドに伝承され、現存する可能性を示している。そのため、『詳注』についても、その可能性を視野にいれ、カシュミールで著された著作群だけではなく、南インドで著された未出版の註釈類についても調査を行う。

『主宰神の再認識反省的考察』に対する註釈『主宰神の再認識反省的考察注』(以下、『ヴァーキヤー』)、『主宰神の再認識偈』に対する註釈『アンヴァヤディーピカー』、カシュミールではクシェーमारージャの著作とされ、南インドの伝承ではナーガーナダに帰せられていた『パラプレーヴェーシカー』およびそれに対する註釈に注目する。

### (3) 『詳注』断片の校訂テキストと翻訳研究の作成

研究代表者は、『再認識偈および注』のラクノウ写本から回収される『詳注』断片および新たに発見される『詳注』断片の文献学的研究を行う。上述の『詳注に関する反省的考察』写本から回収される『詳注』については、すでにRatié博士が研究を進めているが、そこに含まれる『詳注』の認識章第八日課第10偈から行為章第三日課第7偈までの内、行為章第二日課については、Torella博士が準備を進める。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究の主な成果

###### 写本欄外註の網羅的蒐集

写本欄外註の網羅的蒐集に関しては、Chetan Pandey 氏によって提供された写本資料の処理に想定以上の時間を要し、今後も継続する必要があるが、Ratié 博士によって報告されていた『詳注』については、電子テキストの作成を終えた。これによって、当該箇所にかかわる『詳注』断片の判別については容易になった。蒐集された欄外註の内、すでに知られている文献からの引用やすでに『詳注』断片であることが判明しているものが、ほとんどであったが、典拠不明であり、『詳注』断片であるかどうか不明なものも残されている。

断片的に蒐集された欄外註に関して、各偈に対する導入部分の『詳注』が回収されることが比較的多いことが指摘できる。しかし偈全体の『詳注』を回収できる部分はほとんどなく、まさに断片的にしか『詳注』は回収されていない。

写本欄外註の挿入に関しては、17 世紀頃に活躍したシャンカラカンタの関与が指摘できる。そしてその時代には、すでに『詳注』は断片的にのみ伝えられていた可能性が高い。

###### 後代の註釈文献の調査

『主宰神の再認識反省的考察』に対して南インドで著された註釈『ヴァーキヤー』にも、『詳注』断片が僅かに含まれていた。しかし、『ヴァーキヤー』作者は、その引用をウトパラデーヴァの『精神的認識主体の確立』と理解している。このことから、『ヴァーキヤー』作者が『詳注』を知っていた可能性が低いことを指摘できる。

『アンヴァヤディーピカー』は、作者に関して現代の研究者の間で異論があったが、ナーターナンダであることが明らかになった。彼は、ヴィーラシャイヴァの学匠スヴァプラバーナンダの依頼によって『主宰神の再認識偈』に対する註釈を著している。スヴァプラバーナンダの活動地域および唯一の写本がマイソールに残ることから、『アンヴァヤディーピカー』は南インドのカルナータカで著されたものと考えられる。

『アンヴァヤディーピカー』において、『ティーカー』という名の著作が言及されている。しかし、『詳注』の断片は未だ見出されていないため、目下の『詳注』を指しているかどうか疑わしい。『アンヴァヤディーピカー』では、引用元を明示することなく、アビナヴァグプタの『主宰神の再認識反省的考察』を引用することがほとんどである。

『パラプレーヴェーシカー』は、従来アビナヴァグプタの弟子であるクシェーマラージャに帰せられてきたが、南インドの伝承では、ナーガーナンダに帰せられる。『パラプレーヴェーシカー』のカシュミールシリーズの刊本には、脚注が附されている。他の刊本と同様に、写本欄外註を写したのと考えられるが、それらは『パラプレーヴェーシカー』に対して南インドで著された二つの註釈と一致しないことから、カシュミールで挿入されたものと考えられる。

南インドで著された二つの註釈、チダーナンダによる註釈と 17 世紀頃のカルナータカで著されたハリハラシャルマンによる註釈、いずれにおいても『詳注』は確認されていない。

これらの南インドで著された註釈群に『詳注』断片が、ほとんど見られないことから、『詳注』が南インドに伝承されていない可能性が高い。

###### 『詳注』断片の校訂テキストと翻訳研究の作成

現在利用できる欄外註や後代の註釈文献を調査検討した結果、Torella 博士や Ratié 博士が報告している『詳注』の他に、まとまった形で残っておらず、『詳注』は断片的に伝承されていることが確認された。『詳注』の文献学的研究については、それぞれの研究者によって進められ、随時発表されている。研究代表者は、認識章第七日課第 1 偈をほぼ終えた。当該の偈に関しては、『詳注』はほとんど回収されている。

##### (2) 今後の展望

『詳注』の校訂テキストおよび翻訳だけではなく、未確定の写本欄外註についても随時公開される必要がある。『詳注』が明らかにされることによって、ウトパラデーヴァとアビナヴァグプタがシヴァ元論の確立に果たした役割はより明確になる。このことは、同時代のカシュミールで健在であった仏教がどのように理解されていたのかを明らかにする一助となるだろう。

また再認識派文献の写本欄外註の形成過程が明らかになることによって、シヴァ教文献以外の文献にも残されている欄外註の形成過程およびカシュミールの写本伝承文化の解明に繋がるものが期待される。

『詳注』断片を探す過程において、南インドで著された未出版の註釈文献についても参照している。これらは、南インドのシヴァ教文化がどのように形成されたのかを考える上で、貴重な資料である。そして、『パラプレーヴェーシカー』のような南インドで著された文献が、いつどのような形でカシュミールへ伝承されたのかを明らかにすることは、南北インドの文化交流の実態解明に資するものになるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 川尻洋平	4. 巻 68.2
2. 論文標題 作者不詳のIsvarapratyabhi jnavimarsini vyakhyaについて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 1070-1065
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4259/ibk.68.2_1070	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川尻洋平	4. 巻 69.2
2. 論文標題 Isvarapratyabhi jnavayadipikalについて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 958-952
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 2件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Yohei Kawajiri
2. 発表標題 On the Transmission of the Pratyabhijna to South India
3. 学会等名 17th World Sanskrit Conference（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yohei Kawajiri
2. 発表標題 Introduction to the Vyakhya, a South Indian Commentary on the Isvarapratyabhi jnavimarsini
3. 学会等名 Seminaire Mondes indiens（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yohei Kawajiri
2. 発表標題 On the Transmission of the Pratyabhijna to South India
3. 学会等名 Seminari indologici (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川尻洋平
2. 発表標題 作者不詳のIsvarapratyabhi jnavimarsinivyakhyaについて
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第70回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川尻洋平
2. 発表標題 Isvarapratyabhi jnanvayadipikaについて
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第71回学術大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ラティエ イザベル  (Ratie Isabelle)	パリ第三大学・Mondes iranien et indien・Professor	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
その他の研究協力者	トレッラ ラッファエレ  (Torella Raffaele)		
その他の研究協力者	石村 克  (Ishimura Suguru)		
その他の研究協力者	小倉 智史  (Ogura Satoshi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フランス	パリ第三大学			
イタリア	ローマ大学			